

■ VISTA 5 ニュース

札幌市教育文化会館 様

VISTA 5

大ホール音響調整室に VISTA 5-42F を採用



札幌市教育文化会館様では2009年度、大ホール音声設備の更新が行われました。同ホールは日本音響家協会の優良ホール100選にもリストされており、広いステージと優れた音響は、演劇・音楽・芝居・ミュージカル・オペラなど様々なジャンルに利用されています。運用スタイルも地元のアマチュアからプロまで幅広いアーティストに対応する姿勢が伺えます。

更新にあたり、SRツアーにも耐えうるVista 5 SRとスタジオ用Vista 5-42Fが検討されましたが、屋内の調整室であること及び演劇など市民参加の多い多彩な舞台をこなすため、フェーダー数が多い42フェーダーのVista 5が採用されました。音質へのこだわりとして、音声システムのサンプリング周波数を96kHzで運用することを必須とされており、納入前に実際のPA設備での試聴も行い、スピード感のある音質という評価をいただきました。ケーブル長約150m先のアンプ室へはMADI光回線でステージボックスに伝送し、AES/EBU 96kHz信号をアンプシステムに渡しています。また、VistaシリーズのオプションであるVST PCを装備しており、GEQやリミッター/コンプレッサ、空間系エフェクターなどをVista 5のメインスクリーン上で制御でき、Vista内のルーターでいかなるポジションにもインサートすることができます。

ホール用音声調整卓で不可欠な出力マトリクスについては、従来の独立したスタイルの出力マトリクス・パネルを用意することなく、Vistaの標準仕様のAUX SEND系出力で運用しています。グループ出力フェーダーからもAUX SEND系へ送ることができるため、従来の運用方法を変えることなくオペレーションできています。チャンネルストリップ上の送りレベルの操作つまみには、送り先の名称が表示されるため、オペレータは安心して操作することができ、コントロールペイの40個のエンコーダは、全ての入力系/出力系のレベル（フェーダー）コントロールを自由に割り当てることができ、また出力レベルも確認できるため、違和感なく操作できているようです。またAUXやGroup出力系にもトークバックや任意の素材を割込む機能やリミッター/コンプレッサを装備させています。

今回の更新では、周辺機材に関しては既設機器を継続運用でしたが、館内緊急放送時の音声カットなどの制御も含め、音声システム関連については、特注品類を使用することなく、Vista 5の標準機能だけで要求仕様を実現することができました。

